

養鰻業実態調査

紀平正人・宮本敦史

目的

本県の主要内水面養殖業であるウナギ養殖業の実態を調査し、その動向を把握することを目的に本調査を行った。

方法

本調査は、平成9年11月1日から平成10年10月31日までの期間を対象に調査したもので、期間中の県内稼働養鰻経営体数は17経営体であった。この全経営体に調査表を配布し、記名式による回答を得た8経営体（回答率47%）についての結果をとりまとめた。

結果

調査期間中の総養殖水面積は11.07haであるが、実際に使用された水面積は8.12haであった（表1）。

シラスウナギ及び原料ウナギの購入量は、それぞれ317kg（うち中国産50kg）、45kgであった。これに対し生産販売量（成鰻）は696ton（うちヨーロッパ産2ton）であった（表2）。

魚病被害量は約10.7tonで、そのうちバラコロ病による被害3.6ton、鰻病による被害4.5tonであった（表3）。

また、加温ハウス池の飼育状況をみると、飼育水温範囲は24～32℃（平均28.0℃）であった。池底の種類を面積比で見ると、砂泥池61%、コンクリート池39%となり、餌付けは全経営体が人工餌料を用いている。

オイルの添加率は、シラスウナギ0～5%、クロコウナギ0～10%、養中以上では3～10%の範囲での添加であった。

換水率は、一日当たりシラスウナギの場合7～50%、クロコウナギ3～30%、養中ウナギ以上3～30%であった。

表1 使用池水面積 (ha)

	加温	無加温	合計
露地池		0.26	0.26
ハウス池	5.88	0	5.88
ハウス循環濾過池	1.95		1.95
その他			0.03
合計	7.83	0.26	8.12

表2 購入量と出荷量

産地	購入量 (kg)		出荷量 (ton)
	シラス鰻	原料鰻	成鰻
日本産	267	45	694
中国産	50		
ヨーロッパ産			2

表3 魚病被害量 (kg)

病名	被害量
バラコロ病	3,564
鰻病	4,509
その他	2,618
合計	10,691